

# 未来の先生 ライフスキルを学ぶ

＜ライオンズクエスト プログラム ワークショップ@東北福祉大学＞

引き出しが  
ふえた!

先生方の話口調や工夫、ジョーク等から、人を引き付ける力の大切さを知るとともに、効率的かつ効果的な指示の出し方や、子どもたちを動かす立場として意識しなければならぬヒントをたくさん吸収することができました。(1年生)

コロナ禍の大学生活

一年生には、大学生活でほぼ初めての長い対面授業が今回のワークショップでした。彼らはきっと一生忘れないことでしょう。  
(大学教員より)

2021年1月、東北福祉大学にて、教育学部の学生を対象としたライオンズクエストプログラムワークショップが2回開催されました。どちらも満員御礼。前向きな若者たちの感想をお届けします。若者たちがいろいろな場所で活躍する日が楽しみです。

2日間でたくさんの人たちとグループで活動しました。その中でも1人1人に役割があるため、責任を持って活動を行い、私がある意味があることを実感できました。ここで学んだことは全てが教員として現場に立った際に活用できることばかりで、とても勉強になりました。(3年生)

小さい紙に書けることでも、大判用紙を配布することで、文字で表現したり、絵を描いたり、様々な表示方法があると感じました。どんな風に表現してもいいよ、と、あえてアバウトに指示をすることで、児童生徒の個性が現れたり、言葉では表しにくい感情も表現する事ができることを学びました。(4年生)

先輩後輩と  
一緒に活動して  
得られるもの

コロナ禍で多数の人と協力して活動することが少なかったため、1から4年生までの様々なコースや専攻の学生と関わることができた。自分にはなかった沢山の考え方を共有できた。私もさらに頑張ろうというよい刺激になり、貴重な経験になった。(4年生)

グループ活動を行う中で、講師の先生がほとんどアドバイスをしなかったことも印象的でした。講師の先生のアドバイスがなくても、自分たちが必死で考え、話し合うことが普通にできていました。教師の仕事は、「教える」ことですが、「あえて教えない」ことも大切であることを理解しました。「あえて教えない」ことが子どもの主体的・対話的な学びに効果的ではないかと考えるようになりました。(2年生)

教員が答えを提示するのではなく、児童ら自身の考えさせることで、一人ひとりの「正解」を導く力を育てることができると感じました。ライフスキル教育とは答えのない問いに答える力を育てる教育だということを実感しました。(3年生)

主体的な学びや  
気づきを促す

子どもたちの答えが間違ってもすぐに指摘するのではなく、少し様子を見るということも大切だと学びました。(2年生)

一番印象に残っていることが模擬授業です。初めての模擬授業、初めての縦のつながりで不安でした。ですが先輩方がいたからこそ6人のチームで作上げた授業が終わった後の達成感がとても気持ちよかったです。(1年生)

全ての内容に対して、個人の意見が尊重され、誰もが発言しやすい雰囲気の中で積極的に参加できた。また、経験のある先輩方が進んで全体をまとめてくれていたこともとても印象に残りました。今日行った内容と先輩方の行動力を自分の中に落としこんで行きたいです。(1年生)

普段あまり接する機会のない先輩や後輩と一緒に授業やレクリエーションを考えることができた。特に私は中等教育専攻で初等の授業の作り方ややり方を知らなかったため、授業や子供に対する考え方を深めることができた。(3年生)

3年生として自主的に動かなければという責任感を持って活動することができました。コロナ禍のため、みんなと触れ合ったり、たくさんの意見交流をすることが難しくても、工夫次第で楽しい雰囲気を作ることができることを学びました。(3年生)



東北福祉大学でのライオンズクエストプログラムワークショップ開催は、ライオンズクラブ国際協会 332-C 地区がサポートしています。

